

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995

2014~2015年度 No.183

3・4月 月報

那須クラブ会長 主題

心をあわせて もう一歩



那須ワイズメンズクラブ



那須クラブ設立20周年記念感謝例会での東京目黒クラブとのDBC締結式

2014~2015年度 主題

国際会長：(IP) Isaac Palathinkal (インド)

「言葉より行動を」

アジア地域会長：(AP) 岡野 泰和 (大阪土佐堀)

「未来を始めよう、今すぐに」

東日本区理事：(RD) 田中 博之 (東京)

「誇りと喜びを持って」

北東部長：大久保 知宏 (宇都宮)

「一体となって一歩前に」 - 楽しく、楽しく、楽しく -

クラブ役員 事務局

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

書記：河野 順子

会計：荒井 浩元

担当主事：鈴木 保江

ブリテン：荒井 浩元

田村・村田

2月例会データー (出席率：83%)

在籍者 6名

出席者 5名 メネット 3名

3月例会データー (出席率：100%)

出席者 6名 メネット 3名

ゲスト 41名

ビジター 19名

今月の聖句

「二人または三人が私の名によって集まるころには、私もその中にいるのである。」

マタイによる福音書 18：20

3月度 Happy Birthday

東京目黒クラブ 那須クラブ

6日 山梨順子メネット 13日 田村純也メン

4月度 Happy Birthday

25日 福島多恵子メネット

3月強調月間

- ・BF (Brotherhood Fund) BF代表や国際議員が公式旅行をするために積み立てられる基金。全世界のワズメンの参加によって、使用済み切手を集め整理して、切手市場で換金する方法が主力であった。
- ・メネット 国際プロジェクト(ブラジル・インドへの2ヶ所)、ID(国際メネットディレクター)支援、国プロジェクト(YMCA 施設へ絵本を贈る運動、東日本大震災復支援)につきまちは全クラブの会長あて献金お願いを発送し、2015年2月9日現在19クラブから国際プロジェクト74,500円、ID支援31,200円、国内プロジェクトとして絵本120,500円、東日本大震災63,000円が届いております。

4月強調月間

- ・LT ご承知のように、LTとはリーダーシップ・トレーニング(Leadership Training)の略です。「ワイマンであること」自体がリーダーシップ・トレーニングといわれています。それは、入会式の際に誓約した3つの事柄にも表わされていますし、ことばを代えて、4つの「I」(Idealism:理想を持つこと、Interest:興味を持つこと、Initiative:率先して、Industry:労をいとわぬこと)としても表現されています。「理想、興味持ち、自ら提案者となり、労をいとわず、前向きに行動すること」と表現してもよいでしょう。

巻 頭 言

那須ワイズメンズクラブ設立20周年記念感謝例会の準備を通して

副会長 河野 順子

20年前のみんなは若かった。希望に萌え、日本経済も今ほど深刻でなかった。などと、回顧している暇はなく、1月新年例会終了後、にわかにならぬ20周年記念式を行わなければならない義務感に襲われた。メンバー6人とメネット3人それぞれが…。

3月14日に期日を決定してからの行動は、速い。幸い数か月前にYの担当主事が当ワイズの仲間入り(唯一、瞬発力と記憶力保持)をしてくれたおかげで、戦力は盤石?

1月23日(金)にアジア学院で会場の確認を兼ねて第1回目の準備会を持った。礼拝堂とティーパーティー会場を拝見してこれなら何とかできるとの確信を得た。2月に入り、毎週準備のための集まりを持ったが(都合8回)、忙しい。メンバーの大半は高齢者なのに、なぜか世に必要とされて多重労働である。しかし、老骨に2月の夜は容赦なく寒さが襲う。なのに、誰も風邪ひとつつかない。

はじめに、昨年、秋の会津クラブの20周年記念式を参考にさせて頂き、当日までの準備役割をつかった。次回までに、役割の構想やアイデアを持ち寄り、承認を得ることをした。一番難儀は、会費及び捻出する費用である。弱小クラブの悲哀を感じた。ところが、さすがメネットたち。費用のかからないアイデアが次々と提案される。僻地の強みは、根強い社会資源である。アジア学院という誇るべきアイデンティティと実践を持った施設からの協力、国際医療福祉大学の学生を中心としたYリーダーのサポートを加えて、費用を抑

えた中身の濃い記念式ができそうだと感じた。タレントの恵まれたことも準備中に感じていた。かつて、Yの職員だったメン・メネットがたたき台書類を作成し、それに従っていけばよいという。メネットが言う。「朝3時ごろからパソコンの音がして」と。メンは、「夢の中で『不足しているもの』が出てきて、夜中に飛び起きている」と。もう一人のメネットは、家族に私たちの夕食(集まり時)を料理させ、できるだけ温かいものをと配慮してくれ、安い予算で賄ってくれた。

会議が重なるたびに、メンバーの結束力がより強まり、具体的なプログラムが出来上がるころは、3月14日が待ち遠しいくらいの余裕(不安もあったけれど)さえ、感じられた。

あとは、各クラブの参加される皆さんにできるだけの歓待を真心こめてできれば、これからの出発になれるかと思っている。

当日は、遠くは姫路クラブから、とちぎYMCA代表理事鷹箸様、東日本区理事田中様をはじめ、11のクラブより、42名のワイズメン・メネット、ユースリーダー6名、アジア学院の関係者12名の60名のご参加をいただき盛大によい会ができたと自負いたしております。又、東京目黒クラブとのDBC締結式が大きな花を添えていただきました。これからの那須ワイズが外に向けての発信をするきっかけとなりました。紙面を借りて感謝を申し上げます。

2月例会(ユースリーダー報告会)

記録: 荒井 浩元

日時: 2月9日(金) 午後6時~8時30分
場所: 日本基督教団西那須野教会 1階ホール
参加者: 田村会長、河野、荒井、村田 メネット: 田村、村田。スピーカー: もっちゃん(橋本裕翼)、

シェル（酒井舞）、すっちー（須江卓矢）、こまゆ（小出麻結）、れいれい（鈴木怜奈）

ゲスト：菊地さん 合計：12名

2月例会では、今年度に全国のユースプログラムに参加した那須YMCAのユースボランティアリーダーが報告を聞くリーダー活動報告例会となりました。

■第27回ユースボランティア・リーダーズフォーラム（2014年9月19日～21日）

・橋本 裕翼（もっちゃん/国際医療福祉大学1年生・薬学）・酒井 舞（シェル/国際医療福祉大学1年生・看護学）

ユースボランティアリーダーズフォーラムでは、「リーダーに求められること」をテーマに、様々なグループアクティビティを通して学びました。現在、那須YMCAで活動しているなかで、いかにリーダーとしてレベルアップができるかを考えて学びを深めていきました。また、アクティビティを通して他のYMCAのリーダーたちとの交流があり、YMCAの広さを感じながら、キャンプ体験を楽しむことができました。

■第45回全国YMCAリーダー研修会（2014年11月1日～3日）

・鈴木 怜奈（れいれい/国際医療福祉大学3年生・医療福祉マネジメント学）

全国YMCAリーダー研修会では、「担い手として自ら気づき、考え、自ら動く」というテーマに、講演やグループワーク、ディスカッションなどを通して、学びを深めていきました。全国YMCAリーダー研修会は、全国から更にリーダーシップを持ってリーダー組織を牽引するリーダーたちが集う、リーダーたちにとって誰もが憧れる研修会でもあります。子ども、貧困、平和、震災、障がいなどの様々なテーマから1つ選び、そのテーマを通して、YMCAでどのようなことができるかを考えていきました。今回参加した、れいれいリーダーは、福祉（障がい）というテーマを選択し、社会において障がいをどう向き合っていくかを様々な視点で考えました。リーダーは単なるボランティア活動ではなく、社会において様々なアクションを起こしていく人であることをリーダーは学ぶことができました。

■第2回北東部ユースリーダーズアクト（2014年11月22日～23日）

・須江 卓矢（すっちー/国際医療福祉大学1年生・薬学）・小出 麻結（こまゆ/国際医療福祉大学1年生・看護学）

北東部ユースリーダーズアクトでは、東日本大

震災で被災した子どもたちが集まるサッカーチームを招待して行うサッカー大会にボランティアリーダーとして子どもと関わり、震災を振りかえりながら、今後どう震災と向き合い、日常生活やYMCAボランティア活動につなげていくかを学んでいきました。また、震災当日の話を聞いたり、子どもたちが真剣にサッカーをしているを応援するなど、YMCAの通常活動では体験できないことを体験することができました。



今回のリーダー報告は、それぞれのプログラムで体験したことや学んだことを熱く語り、リーダーたちにとってYMCAユース

ボランティアリーダーとしての再確認の会となったのではないかと思います。この度はこのような報告の機会を頂きどうもありがとうございました。

「揚がれ！希望の凧2015」

日時：3月8日（日）午後2時～午後3時30分

会場：大田原市ふれあいの丘芝生広場

参加者：田村会長、村田副会長、荒井 メネット：田村、村田 ゲスト：もっちゃん（橋本裕翼）、やぎ（八木澤亜季）、れいれい（鈴木怜奈）、かとう（塚本貴大）、チャン（太田晃平）、スマイリークラブ参加者・ボランティア、一般参加者、合計：約30名

東日本大震災から四年、今年も「震災を語り継いでいく」「被災地の方々を思い、共に考える」ことを願って、「揚がれ！希望の凧2015」大田原市ふれあいの丘にて行いました。朝から小雨が降ったり止んだりの天候で開催が危ぶまれましたが、午後には回復し無事開催することが出来ました。YMCAに集う子どもたちのグループ活動や地域の方々が来場し、約30名の参加者を得て行うことが出来ました。下野凧の会（下野宮凧の会）の方々が、来場者へ凧の揚げ方をアドバイス、凧の調整・修理などをサポートしてくださり、ど



の凧も空に揚がりました。天候が影響したのか昨年と比べると参加者は少なくはありましたが、毎年参加される方も多く

あり、震災復興の切実な思い・願いを感じることが出来ました。たくさんの風が復興の想いを込めて空に揚がりました。震災のあった午後2時46分には、参加者全員で黙とうをしました。被災地は復興途上にあり、まだまだ支援を必要としています。しかしながら私たちは新しい出来事に目を奪われ、震災のことを記憶の片隅に追いやり、印象が薄れているのは事実と感じます。「風揚げ」という小さなイベントではありますが、「震災を語り継いでいく」「被災地の方々を思い、共に考える」ことを改めて思い・願うために、今後もこの「希望の風」を実施します。風の売上及び、募金としてお預かりした1890円は、YMCAの行う被災地支援活動に使用いたします。ご協力ありがとうございました。

3月役員会報告・20周年準備会

日時：2月4日(水)・13日(金)・20日(金)
3月8日(日)・12日(木)
18:00~20:00

場所：日本基督教団 西那須野教会

協議事項

1. 4月例会について

赤松林の植樹例会を4月25日(土)に開催する。

3. 那須ワイズ設立20周年記念例会について
2015年3月14日(土)の午後1時30分から行う。会場はアジア学院礼拝堂・コイニアハウス、記念礼拝 潘宣教師、記念講演 大津健一校長、祝会(茶話会・ティーパーティー)、を行う。祝会の最初に東京目黒クラブとのDBCの締結式を行う。アジア学院との最終交渉は、田村・村田メン、田村・村田メネットに一任する。準備で足りないことがないかの確認をし、当日を迎える。

設立20周年記念感謝例会の反省会

日時：3月26日(木)午後7時~

場所：創作料理「ブレッシング」

出席者：田村、河野、原田、荒井、村田の各ワイズ。田村、原田、村田の各メネット。

美味しい食事をいただきながら、20周年記念

感謝例会の反省と感謝の会を持った。村田副会長、田村・村田会計より設立20周年記念感謝例会、姫路・東京目黒・那須クラブの交流会の会計報告



があり、収支は少し赤字であったが、昨年度の特別会計繰越金を当てることにより賄う事ができた。東京目黒クラブ出席者よりの献金を含めて、33,481円をクラブ運営特別会計とすることにした。又、今後はクラブの記録をYMCAの中に保管庫を置いてもらって、保管することをお願いする。原田ワイズからは、これからの那須ワイズの方向性を田村・村田の両人で考えて方針を示してほしいとお言葉があった。

今後の予定

・4月例会(植樹例会)

日時：4月25日(土)午前10時~

場所：那須街道赤松林駐車場

内容：植樹・保育・歩道清掃と新緑の那須と那珂川溪谷探勝

*全員保険に加入しますので、出欠は4月21日までに田村会長まで。

・4月役員会

日時：4月10日(金)午後6時30分~

場所：ココス西那須野乃木店

・第3回北東部評議会

日時：4月18日(土)午後1時~4時

場所：とちぎYMCAさくらんぼう幼稚園

・ようとう保育園開所式

日時：4月29日(水)午前9時~10時

場所：ようとう保育園

・とちぎYMCA大会

日時：4月29日(水)午前11時30分~(予定)

場所：ようとう保育園

旧西那須野(那須西原)の緑と水(24回)

田村修也

その時松方は更に言葉を継ぎ、「自分は過日、佐久山宿から大田原に至る途中、那須野が原の一端を望見したが、その草生いの状況から見ても、決して捨てたところではない。君等は開墾に先立って、水利を起こすことに力を注いでいるが、水利は元より必要である。

しかしながら、自分は先年米国の農業を視察したが、同国にては、皆陸田にて、畜力により大農具を用い、大面積を耕し相当の利益を挙げている。

那須野は土地広潤、米国風の農業を営むに好適の地であるから、その方針で早く開墾に着手するがよい。目下の情勢にては、遷延すると他人に先鞭をつけられる惧れがある。水利のことは、しかる後考えても遅くはあるまい。」と、矢板に語りかけたという。矢板は、松方の温情と、その意見に大きな感動を受け、その夜は随行の南一郎平から、得意の水利談を聴き、翌日は喜び勇んで帰県し、縣令にこの旨を伝え、且つ印南には、早く開墾に着手するよとの松方の勸説を伝え、印南も大いに賛意を表した。かくして印南、矢板は松方の約束した電報の来るのを心待ちに待った。

明治新政府は安政条約の改訂のため条約締結国に全権使節を送り改訂交渉を行わせることにした。全権大使は岩倉具視、副使には参議の木戸孝允、大蔵卿の大久保利通、工部大輔の伊藤博文、外務少輔の山口尚芳の4名、随行員は各省選り抜きの理事官、書記官等を加えて総勢48名、その他15歳以下の少女5人（山川捨松、永井繁子、津田梅子等）を含む50余名の留学生が従った。明治5年11月に横浜を出て6年9月に帰国。約2カ年の欧米視察にかかった経費は当時の百万円で、今日の価格では約20億円という巨額であった。この視察の成果が日本の国づくりに大きな力になったことは言うまでもない。この視察に参加しなかった西郷や山県との間に意識の齟齬が出来たことは想像に難くない。

松方はこの使節団に加わってはいなかったが、その後明治10年に渡欧し11年3月から12月までパリを中心とするフランスに滞在している。太平洋を渡りアメリカを縦断して大西洋を渡りフランスへ向かったのだろうか。その時アメリカで見聞きした農業事情を矢板に話したのだろうか。

岩倉使節団は1872年に開通して間もないアメリカ大陸横断鉄道の乗客になっているので、その可能性はないともないと思われる。

また「他人に先鞭をつけられる危惧」については、那須西原（蛇尾川の西側）においては、1880年（明治13年）三島通庸ら薩摩藩士が一千町歩の払い下げ願いを提出し、3月20日に貸下げ許可を得た。これを受けて9月には肇耕社を設立して開拓に着手している。印南、矢板の那須開墾社はこの年に三千町歩を申請し、肇耕社に遅れること約40日の5月1日に許可を得ることになる。他に1880年には郡司開墾、1881年に大山巖、西郷従道の加治屋開墾、1886年に渡辺国武の渡辺農場が、そして那須東原（蛇尾川から那珂川の間）では1881年に漸進社、那須

東原開墾社（埼玉開墾）、佐野農場、青木周蔵の青木農場、1882年には石丸農場、1883年に共墾社、1885年に毛利元敏の毛利農場、1887年には戸田氏共の戸田農場と、那須西原では5農場5127町歩、那須東原では8農場6047町歩の開拓が着手された。このような機運があったので、松方は矢板に早期申請を促したのである。南一郎平については次回に紹介したい。

（次回へ）

YMCA報告

日頃よりYMCAの諸活動にご理解、ご協力を頂き感謝申し上げます。皆様のご協力・お支えにより2014年度的那須YMCA全プログラムが無事に終了いたしましたことを報告いたします。2015年度は昨年度の実績に甘えず、更なる那須YMCA・地域の発展を目指し進めていきました。2014度は西那須野幼稚園委託事業「運動あそび、英語あそび、サタデークラブ」、那須YMCA発達障がい児支援プログラム「スマイリークラブ」、那須YMCA「英会話教室」、とちぎYMCA野外活動プログラム「Yキッズ」、宿泊キャンプなどの「シーズンプログラム」を実施いたしました。また、秋には西那須野幼稚園の造形展に併せてオルガンコンサートを実施することができました。那須YMCAで活躍しているユースボランティアリーダーも昨年度以上に活発な活動を行っております。リーダーたちが積極的にボランティア活動する姿は、YMCAの根幹ではないかと感じさせられます。

また、東日本大震災から4年が経ち、震災を追悼し復興を願う「揚がれ！希望の風2015」を昨年度に引き続き開催いたしました。時間が経ち、震災の出来事が少しずつ風化されつつあるなか、震災における影響や問題は未だに残されており、心を痛めております。震災だけではなく、高齢者、子ども、若者、就労、環境など様々な課題が県北地域には存在しています。那須YMCAではその様々な課題について考え、地域の方々と共に取り組んでいきたいと存じております。

また、2015年度的那須YMCAに関わるスタッフの紹介をいたします。

那須YMCA全般：荒井 浩元（マリオリーダー）
地域活動、ワイズ担当主事、西那須野幼稚園委託事業（体育・サタデークラブ）、野外教育プログラム、語学教育プログラム、ユース活動など
英会話教室補助・事務：村上 尚子（むらかみ な

おこ)

英会話講師：Brian Hoover（ブライアン・フーバー）、James Thorne-Wallis（ジェイムズ・ソーンワリス）

スマイリークラブ：藤生 強（ふじょう つよし）
2014年度のご協力・お支え頂き感謝を申し上げます。また2015年度も引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

【ようとう保育園開所式、オープンハウス、とちぎYMCA大会のご案内】

2015年4月より宇都宮市陽東地区にある「今泉第二保育園」が宇都宮市から民営化され、とちぎYMCAが運営する「とちぎYMCA福祉会ようとう保育園」に生まれ変わりました。そこで、園舎も生まれ変わり、新しいスタートを迎えます。4/29（水・祝）に新しい園舎の開所式並びにオープンハウスイベントを行います。新園舎の内覧会と同時にお祭りイベントも行います。また、それに併せて2015年度とちぎYMCA大会も開催いたします。この機会に、是非、とちぎYMCA大会のご参加に併せて、とちぎYMCAにとって新事業のようとう保育園の園舎をご覧頂けたら幸いです。

【開催要項】

日時：2015年4月29日（水曜・祝日）

時間：ようとう保育園開所式9時～10時

オープンハウス 11:00～14:00

2015年度とちぎYMCA大会 11:30～
（予定） ※後日別途ご連絡いたします。

会場：ようとう保育園（宇都宮市陽東3-4327-5）
028-612-2461



姫路グローバルクラブと共に被災地訪問

報告：村田 榮

東日本大震災から5年目を迎えた「被災地を訪ねるツアー」を計画した姫路グローバルクラブのメンバーと共に3月21日（土）～22日（日）の1泊2日で参加しました。5年目を迎えて少しずつでも復興している地域と、原子力発電所の事故により、避難指示が出されて帰宅ができない地域とでは大きな差が生じています。仙台空港に姫

路グローバルクラブのメンバーを迎えて、毎年訪問している岩佐農園の復興の様子を伺い、昼食を取らせていただいた。イチゴはすくすくと育っておりました。その後、常磐道の開通により、避難指示地域の通過が可能となったので、バスを締め切った状態で通過をしました。9.9 マイクロシーベルトまでしか測れない放射線量の計測器を持って行きました。高速道路の放射線の量の標示はそんなに高くありませんでしたが（写真）、計測器は9.9を示しそれ以上の値が示せない地域（避難指示の地域）もありました。避難指示・帰宅困難の地域では横道に入らないためのバリケードが張られ、いたるところに警察官が立っていました。庭には、春を迎えた花々がひっそりと咲いていました。閑上地区に訪問すると土地を約10m高くする



る工事が始まっていました。仙台国際ホテルでの宿泊、仙台青葉城クラブの方々と交流会で懇親を深めました。

2日目には、新しいクラブを立ち上げようとしている、石巻広域ワイズメンズクラブ（仮称）のメンバーの方に石巻周辺を案内していただきました。今まで違った視点から地域の状況を見聞することができました。その中で、NPO「川の上プロジェクト」の活動を見学させていただきました。このプロジェクトは、津波によって被災された方々が地域の住民の方々と共に生きていくことができ、話し合い・交流ができるコミュニティの場所（スペース）作りをされています。4月12日に開設を目指して活動をされていました。そのスペースに本が必要とのことで絵本を送ってくださいとの要望があり、小生宅に眠る本の一部を送りました。今回も大変お世話になった、仙台青葉城クラブと仙台YMCAの皆様に感謝申し上げます。

設立20周年記念感謝例会の中で交わした。那須クラブと東京目黒クラブとのDBC締結書

